

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>《育てたい生徒》 ○生徒の生涯におけるキャリア形成の礎となる、社会人としての一歩を踏み出す力を備えた、社会から必要とされる人を育てる。</p> <p>○進路として就職を選んだ場合も、自らの資質能力向上にむけ、リカレント学習やリスクリング学習に取り組む人材を育てる。</p> <p>○進路として進学を選んだ場合も、仕事によって社会の役に立つ志を持ち学習を続ける人材を育てる。</p> <p>《育てたい資質・能力》～社会人としての一歩を踏み出す力～</p> <ol style="list-style-type: none"> Shine～明るく・輝く～ 前向きな人、明るく活気のある職場をつくる力 Union～調和～ 内にも外にも開かれ、チームの多様性を認める力 Business～勤労～ ビジネスマナーと資格取得、使いこなせる学力 Action～実行～ 自立心のある人、課題解決の視点 Robust～たくましく 何があっても立ち上がるしなやかな力 Unite～一つになる～ 自他への敬意がある人、円滑な対人関係を築く力 	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門性を生かし、社会に貢献する意識を育む学校 検定や競技会で好成績を収め、地域と連携した特色ある活動を通じて、生徒の気づきと成長が見られた。京都すばるデパートも円滑に運営できた。 2 主体性を持ち自ら考え挑戦する意識を育む取組が実践される学校 身だしなみや生活習慣についての声かけを随時行ってきた結果、個々が自覚を持って行動することができた。生活習慣が確立していない生徒が一定数おり、次年度以降も課題となる。 3 生涯学び続けるための学ぶ力をつける学校 学校評価アンケートでは、本校は学力向上のための取組みを十分行われていますかという問いに85%が肯定的に回答した。一方で、仮進級した生徒がおり学力向上に向けての一層の取組みが必要である。 4 規律を持ち、約束事を守り多様性を大切にできる心が育つ学校 規律を守る指導を徹底し、学校評価アンケートでは、頭髪・服装等の身だしなみに関する指導が十分行われているかという問いに92%の生徒が肯定的に答えた。一方で規律を守れない生徒も一定数いた。 5 安心して通い、安全に過ごす環境を整備する学校 事務部を中心として安心安全な環境整備を行い、校内エアコンの改修、敷地内地下盤沈下個所の改修、グラウンド入り口防球ネットの改修、車いす対応の施設整備、古木の伐採等を実施した。 6 生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制のある学校 心身の課題に対応する教育相談体制を構築できた。校内会議等により、課題のある生徒への対応を協議した。次年度は病気療養中等によるオンライン授業の体制を構築する必要がある。 7 スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校 各説明会等の満足度は80%を超え、充実した内容となった。プログは担当者がそれぞれ更新できる仕組みを整え、年間250回以上更新し、校内外の広報強化ができた。 8 キャリア形成としての進路が実現する学校 計画的な就職指導を行い、早期に内定率100%が実現した。高大連携先を開拓でき、連携型入試の規模が拡大した。今後は、専門性を生かした学校推薦型選抜や総合型選抜指導の体制を構築する必要がある。 9 一人一台端末等、ICTを効果的に活用し学校DXを推進する学校 一人一台端末等、ICTを効果的に活用した授業は年々増加している。また、校務におけるICTの活用も増えている。次年度においては、ますます校内DXを推進し、自動採点ソフトの本格導入や一人一台端末をより有効的に活用した授業展開をしていく必要がある 10 確かな目標を持った部活動で、豊かな心が育つ学校 部員数の増加傾向にある部活動がある。一方で減少している部活動もある。今年度も引き続き、確かな目標を持った部活動で、豊かな心を育てたい。 11 教職員がチームになっている学校 課題が発生するたびに、教職員一同が連携して、その解決に向けて一丸となって取り組めた。 	<p>重点目標 1 本校が大切にしている、学校の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら考え行動する主体性を育てる学校（学年部） 専門性の知識とスキルを習得させる学校（教育推進部・学科） 本校生としての規律を守らせる学校（生徒指導部） 3観点の学力を向上させる学校（全ての教科） 生徒一人ひとりに寄り添う学校（保健部） 学校のDXを加速させる学校（教務部・教育推進部） 安心して通い、安全な学習環境を、整える学校（事務部） 競技力や表現力を高め、夢を追う心を育てる（部活動） 専門学科の強みを生かした進路を実現させる学校（進路指導部） 本校の魅力を学校内外へ伝える学校（教育推進部） <p>重点目標 2 本校が大切にしている、教職員チームの目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 学力が向上する授業研究を進める教職員チーム 規律を守り、働きやすい環境作りをする教職員チーム 対話を大切にする教職員チーム お互いにサポートしあう教職員チーム 各自の強みを生かして、協働する教職員チーム 情報を共有して情報格差の無い教職員チーム 魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム 課題解決のためのアイデアを創造する教職員チーム 目的があいまいな取組みを削減する教職員チーム

部	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		成果と課題
教務	学習指導	学力向上	考査前補充の実施	年間25日以上実施する	D	A	次年度も継続が必要
			長期休業中補充の実施	8日以上実施する	D	A	次年度も継続が必要
	資質向上	授業力向上	魅力ある授業に向けた研究授業の実施	各教科1回以上実施する	D	C	B 少人数教科への考慮が必要 年度当初研修会で周知できた 年度当初研修会で周知できた 次年度も継続が必要
			教務視点のUDを意識した授業等	意識率を80%以上にする	A	A	
	ICT利活用	学校DX推進	教務視点のDXを意識したICT機器活用	意識率を80%以上にする	B	B	
			デジタル採点ソフト「採点ナビ」の普及	普及率を60%以上にする	B	B	
総務企画	生徒募集	スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校①【校外】	・「普通科」をなんとなく志願する中学生に専門学科の選択肢を与えるための広報活動	次年度前期選抜における志願者数（起業創造科+企画科計220名以上、情報科学科90名以上）	B	B	B ・志願者数は例年並みであった。全体的に公立高校の志願者が減少するなかでさらに広報を強化したい ・HPでの広報がやや減少してしまった。行事や学科の取組について広報の頻度を上げたい 図書館利用者数：4,400人 図書館利用回数：7回（R8.1月末） ・部会や朝の連絡会を中心に、十分なコミュニケーションが取れていた ・学校説明会や体験授業では、より高い広報効果をねらった企画と最小限の動員を意識し、効率的に業務を行う事ができた
		スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校②【校内】	・授業や行事の様子を校内向けにも発信し、在校生・保護者・教職員の帰属意識や満足度を高める広報活動	同上（校内広報が最終的には中学生の募集につながる）	D	C	
	図書	図書館の活性化	・総務企画部員で図書館業務や委員会活動を分担する ・各種イベント等を積極的に企画実施する ・授業等で図書館を活用してもらうよう働きかける	図書館の利用者数のへ7,000人以上 授業での図書館利用回数10回以上	C	C	
	協働体制	各自の強みを生かして、協働する教職員チーム	・各自の強みを生かすため、対話や議論を大切に部内のコミュニケーションを行う	部員による評価（中間・最終）	B	A	
		目的があいまいな取り組みを削減する教職員チーム	・すべての業務や取り組みについて、効果と負荷のバランスを計画、実施段階で検証し、あいまいな取り組みを削減する ・実施後には部内で振り返りを実施し、次年度への提言事項を記録する	部員による評価（中間・最終）	B	A	

生徒指導	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	登校時の校門指導を実施し、5分前集合の定着を図るとともに、遅刻した生徒には、的確に指導する。	毎朝、登校時の校門指導を行う。校門遅刻指導件数を昨年度より減らす。	B	C	B	昨年度より、遅刻の延べ数が増加した。また、毎朝の校門指導を避け、SHRに出席しない生徒も多い。現在行っている反省文を含め、改善が必要である。
			身だしなみの重要性を指導し、生徒自身に細部にわたり身なりを整える意識を持たせる。日々観察しながら、改善点を確実に指摘する。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。(予定)	C	B		学校評価アンケート問9より肯定的な回答が90%だったため。
	生徒指導	規律性を持ち、約束事を守り、規範意識の向上に努める	HR掲示やスタディサプリなどを活用し、規定や規則の周知を図る。	全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。(予定)	B	B		学校評価アンケート問13より肯定的な回答が85%だったため。
	生徒指導	相手の立場に立った言動ができる生徒を育てる	年2回の人権学習や日常のホームルーム、部活動などを通じて、言動に責任を持つとともに、他者への思いやりが感じられる行動を心掛けるよう指導する。	年2回のいじめ調査アンケート調査を行い、評価する。	B	B		年2回のアンケートに加え、緊急アンケートを含め3回行った。上がってきた内容については、学年を中心に丁寧に対応していただくことができた。
	生徒指導	生徒の主体的な活動を支援する	部活動、生徒会活動、各種委員会活動の充実を図る。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。	B	B		生徒会については、生徒が主体的となって「すばフェス」を開催することができた。
			風紀委員を巻き込み、現在の校則や規則の見直しのきっかけを作る。	生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。	C	B		後期に風紀委員会を行い、スマートフォンの使用に関するアンケートで生徒の意見を反映したルール作りを行った。
生徒指導	意見の相違を受け入れ、対話を大切にしているチーム	各分掌間で連携を図り、生徒指導や学校規定等が円滑に進むよう努める。	生徒指導や行事ごとに生徒指導部から各分掌からの意見を徴集し、評価に繋げる。	B	B	日常的な指導では、各分掌と連携し、双方向からの指導を心がけた。行事においては、各分掌と連携し全職員体制で実施することができた。		
進路指導	進路指導体制の拡充	3観点の学力を向上させる学校	各種模擬試験／実力テストの分析を行い、学習面・生活面・進路意識等についての生徒の実態把握に努める	学年全員が受験する模擬試験／実力テストの分析を実施し、部長会議等で報告する	C	C	B	分析報告できていないものがある
		生徒一人ひとりに寄り添う学校	教育相談会議や学年部との連携調整を密にし、配慮の必要な生徒の進路実現についての道筋をつける	配慮が必要な生徒の進路実現に向けて対応するとともに、今後に向けた指導計画を策定する	A	A		配慮を要する就職希望者の指導を進め、内定をいただいた
		各自の強みを生かして、協働する教職員チーム	所定の分担に従って業務を遂行するとともに、想定外の事象に対して柔軟に対応できる体制を構築する	部会等をとおして定期的に業務遂行状況を確認する	B	B		月2回以上のペースで確認・共有を実施している
	持続可能な進路実現方法の模索	専門学科の強みを生かした進路を実現させる学校	就職補習の実施・企業見学の拡充など、就職指導体制の充実を図る	アンケートで80%以上3年生がの就職指導に対して前向きな評価をしている	D	A		81.2%の生徒が前向きな回答を行った
		専門学科の強みを生かした進路を実現させる学校	上級学校との連携を進め、高大連携型をはじめとする生徒の状況に合わせた進路実現の道筋をつける	令和7年度末までに高大連携先（新規）を1校以上開拓する	A	A		高大連携型入試を拡充させた
キャリア教育の充実	自ら考え行動する主体性を育てる学校	職業分野別講演会や分野別進路体験学習などをとおして、生徒が自身のキャリアを意識し、日々の諸活動に主体的・積極的に取り組めるように指導する	各種アンケートで80%以上の生徒が前向きな評価をしている	D	A	83.9%の生徒が前向きな回答を行った		

第1学年	学習指導	学習習慣を確立させる	教室清掃をはじめとして学習、教室環境の整備をし、全員が学習に取り組む雰囲気を作る。	学校生活全般や各クラスでの生徒の様子を観察することや面談を通して検証する。	B	C	B	基本的な生活習慣の徹底ができていなかった。今後も引き続き指導を継続していく必要がある。
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立するとともに、問題や課題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、担任団と他分掌が協力して指導する。 個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する。	B	A		当該の質問において、肯定的な回答が82%であった。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	ICTを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	A		当該の質問において、肯定的な回答が生徒81%、保護者92%であった。
第2学年	学習指導	進路目標を明確化し、授業を大切にするとともに積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成する	学習環境を整備し、日々の授業を大切にするとともに進路ガイダンスを活用し、将来の自己の姿に展望を持たせる	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	B	A	B	学校評価アンケートの回答で①そう思う、②どちらかというと思うの割合が80%を超えていた。
			スタディサポート等による模擬試験等を活用し、面談等をおしてきめ細かに点検する	受験結果の分析資料を活用し、学力と学習習慣の改善度合いを検証する	B	C		学力向上と学習習慣の定着には課題が残る。第3学年で進路実現に向けて意識改革が必要である。
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立するとともに、問題を抱えた生徒を早期発見し対応する。	学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、必要に応じて担任団が協力して指導する。 個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	B	A		学校評価アンケートの回答で①そう思う、②どちらかというと思うの割合が80%を超えていた。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	スタディサプリなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	A		学校評価アンケートで高い支持を得た。
第3学年	学習指導	学力向上により、個々の希望する進路実現を目指す。	担任による面談等の指導の充実。 進路指導部と対話し意見交換など密に連携することを心がける。	学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する	B	B	B	生徒の進路実現に向けて保護者、進路指導部と密に連絡を取り合い、進路指導を行った。
	生徒指導	自立（律）性の確立。 3年生として下級生の模範となる行動・言動を身につける。	担任によるSHR、LHR時の指導。 約束を守る、清掃による校内環境保全など凡事徹底。 必要があれば、学年全体での指導を行う。 生徒自ら考え、判断し主体的に行動できる力を身につけることができるように指導する。	生徒の言動を観察し、評価する。	B	C		2学期後半から学校生活の乱れや遅刻、欠席が目立ち、学習意欲も低下していった。
	学校運営	ICTを活用した情報共有の充実を目指す。	スタディサプリなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。	学校評価アンケートで確認する。	B	B		学校評価アンケートの中で評価されていた。

教育推進	専門教育	専門性を生かし、社会に貢献する意識を育む学校	専門教科等と連携して検定補習を円滑に実施し、生徒の資格取得を推進する。	各検定試験が設定した目標合格率を上回る。高度資格取得のための講座を開催する。	D	B	B	高度情報技術者試験データベーススペシャリスト試験や応用情報技術者試験に合格を輩出。また、全商検定においても概ね全国平均を上回る検定結果のものがあった。
			専門教科、各部活動と連携して、専門教育を生かした各種競技大会等への参加を推奨・支援する。	全国入賞を目標とし、全国大会・近畿大会に出場する。	B	B		珠算・簿記・情報処理・ワープロ・英語が全国大会出場生徒商研は近畿大会出場 全国入賞には至らず
			地域との協働型の特色ある教育活動の推進を継続する。	生徒の振り返りレポートより、生徒に気づきと成長が見られる。	B	A		外部講師による講演、地元企業との連携等、校外学習は例年同様に実施した。生徒の振り返りにおいて一定の成果も見える。
			「専門性ある職業人」「主体性」を育成することを目標として、深い学びを得る場としてのデパートを構想し、関係者との「共有」と「協働」によって実行する。	準備段階と当日における潤滑な運営ができる。生徒が自らの成長を認識できている。	D	B		生徒及び先生方のアンケート等からも改善点は見えるが、概ね円滑な運営ができた。
	業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム	業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	分掌会議及び役割毎の会議において、現状の把握と気兼ねない意思疎通ができています。	C	B	分担、効率化を進めている。個々の業務量削減が進んでいない部分も残るが、担当者間の協力、相談はできてきた。		
	情報ネットワークシステムの維持・管理	情報ネットワークシステムの維持・管理を行う。	情報ネットワークシステムの維持・管理がスムーズにできる。	B	A	ネットワークの維持・管理は概ねスムーズに進めることができた。		
「学校DXの推進」のため、ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の発信・提供に取り組む。		ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の提供ができる。	B	B	さらなるICT活用に向けた情報提供を心がけた。今後更に推進したい。			
保健	自律性の確立	清掃による校内環境保全の徹底	挨拶で始まり挨拶で終わることを大切にし、10分間全てを用いて清掃する。	10分間の清掃時間を全て使って清掃できているか。	B	B	A	大掃除毎の重点目標から掃除に対する意識をもっと持たせていく
		校内の環境保全に向けて、保健委員会を中心に主体的に清掃に取り組む	どうすれば校内が美しくなるかを生徒が主体的に考え、ポスター作成やニュース作成といった啓発活動を行う。	保健委員会の生徒が各クラスの清掃場所の清掃状況を確認し、改善方法を提案しているか。	D	D		今年度は保健委員による清掃活動の取り組みがあまりできなかった
	教育相談を組織的に行う	生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制を充実させる	保健指導を充実させるとともに、保健担当者会議・教育相談会議にて、気になる生徒の指導の方向性について情報共有し、今後の対応、指導支援について審議する。	月1回の保健担当者会議、学期に2回の教育相談会議に向けて、学年部・生徒指導部・進路指導部との連携、情報共有を行い、生徒へのきめ細かい対応を行っているか。	B	A		保健担当者会議7回、教育相談会議6回実施
		教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有する	配慮・支援が必要な生徒の情報を保健部内で共有し、対応・支援方法を一致させておく。	配慮・支援が必要な生徒に一致した対応・支援を行っているか。	B	A		情報の共有と一致した対応・支援を実施
	特別支援を組織的に行う	一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導、支援を行う	特別支援が必要な生徒の実態を早期に把握し、生活や学習上の困難を改善して社会的自立に向けた指導、支援を行う。	特別支援会議を学期に2回開催し、当該生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを行っているか。	B	A		特別支援会議6回実施
		授業のユニバーサル・デザインを推進する	全ての生徒にとってわかりやすい指導方法を研究し、実践を進めていく。	学校共通の授業のユニバーサル・デザインを5項目実現する。	C	C		学校全体で意識して取り組んでいる

事務	予算執行	学校の特色化の推進及び活性化を図るための効果的な予算執行	<ul style="list-style-type: none"> 校内会議、広報活動への積極的な参加 教職員間でのコミュニケーションの場を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を実現するための重点的な予算計画と執行 事務室を中心とした教職員打合せを適宜実施 	C	B	学校の諸課題について、関係分掌と調整し、課題解決に向けた計画的な予算執行を行うことができたが、課題解決だけではなく、専門高校としての魅力化が発信できるような予算計画を考えていきたい。
	施設設備 環境管理	安心安全な学校づくり	施設担当者・技術職員を中心に施設設備の定期的な点検を行い、危険箇所を把握する。また、老朽化した施設設備について、計画的に改修を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 月1回程度の定期点検の実施 計画的な修繕と改修 	B	B	施設設備の危険箇所について、その都度早急に対応することができた。また、一部ではあるが、空調設備の新設やトイレの洋式化等の環境改善を行うことができた。
		DX化推進に伴う環境整備	DX化推進のための施設設備の改修計画を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 関係分掌との協議や連携を深める。 学校全体のDX化に繋がるよう計画的な学校運営 	C	B	B DX化加速化推進事業を活用し、効果的な環境整備を行うことができた。今後は関係分掌との協議をさらに強化し、事務部からも企画提案できるようにしたい。
	就学支援	経済的不安に対する制度からの支援	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援、奨学金の周知と丁寧な事務手続きを行う。 簡潔で分かりやすい案内文書の作成を行う。 	就学支援、奨学金等の生徒・保護者・教職員への周知徹底	B	B	スタディサプリ等を活用し、様々な支援制度の周知を行うことができたが、より分かりやすい周知の方法を今後検討していきたい。
		一人一台端末に対する支援制度	<ul style="list-style-type: none"> 家庭状況に応じて適切な対応を行う。 簡潔で分かりやすい案内文書の作成を行う。 	各制度を活用してすべての生徒のスムーズな利活用を進める	B	B	
	組織体制	事務部の組織体制強化	<ul style="list-style-type: none"> 各個人の資質能力向上に努める。 報告、連絡、相談体制を確立する。 行政的立場からリードする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の諸課題について、部内会議等で共有する。 事務部から企画提案等を行う。 	C	B	学校の諸課題について、部内会議等でその都度共有することはできたが、課題に対する企画提案がなかなかできなかった。行政の立場から課題解決に向けての提案ができるよう各部署が課題に対して自分ごと化する必要がある。
	生徒指導	規律の徹底	事務室窓口に生徒が来た時に、 ○受付でノックする、もしくは「失礼します」と声かけをするように伝える。 ○学年クラス氏名を言い、何の用件で来たかを伝える。ように促す。	生徒へ声掛けや窓口に貼り紙をする等で促す。	C	B	生徒への声掛けは徹底できたが、まだ一部は要件だけ伝えてくる生徒もいるため、より徹底が必要である。

学科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価		成果と課題
起業創造	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	①簿記、財務会計等において講座授業を行い、学力向上に向けた取組が実施できた。 ②③次年度の課題である。
		専門性を身に付けさせる（専門科目）	①1年生商業学科群に対する、適切な学科選択のための指導の標準化 ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ③検定試験や各種コンテストを活用する ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①検定試験の合格率（全国平均以上） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）	C	C	①ビジネス基礎の授業を活用して学科選択の情報を適切な時期に提供できた。 ②起業マネジメント、ビジネス基礎等を開講し、学科の特性を活かした授業が実施できた。振り返りシートの感想から生徒の満足度が高い。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②積極的に外部との連携を行い、探究的な学習を推進する ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況	B	A	①課題研究において各ゼミ毎の特徴を活かした授業を展開することができた。ゼミレポートの記載からも生徒の活動の充実度がうかがえた。
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	A	B ①年間20回超の外部講師連携やワークショップ、フィールドワークを実施した。 ②昨年度に引き続き高大連携授業を年4回（校内・外部企業・大学講義等）実施した。 ③5名（入学者定員5名）希望者があり、全員合格した。
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	①プロジェクト型授業において教員がファシリテーターとなる授業が実施できた。 ②外部の大人との出会いを創出する授業は実施できているが、三年間の体系的連携は昨年度以来の課題である。
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	A	①②課題研究において「こども食堂」の開催、「シニアの日帰り旅行プラン」の企画実施など、社会貢献に関わる実習を行った。
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容	C	A	①教科会議の定例実施により一定の情報共有ができた。1年次の新課程や新情報処理検定が実施されるにあたり、さらなる高みを目指した指導法の研究が必要となる。
		情報を共有して情報格差のない教職員チーム			C	A	②については4校の進学実績のある商業高校へ訪問し、商業科会議等で共有することができた。

企画	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	①1年英語コミュニケーション・1年数学Iなどで実施 ②2年ビジネス英語で実施 ③1年現代の国語などで実施
		専門性を身に付けさせる（専門科目）	①1年生商業学科群に対する、適切な学科選択のための指導の標準化 ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実をめぐる ③検定試験や各種コンテストを活用する ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①検定試験の合格率（全国平均以上） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）	C	B	①簿記、ビジネス計算、英語で全国平均以上 ②授業アンケート、取組に対する外部評価より ③難関検定の取得率と進路実現への接続 ④授業内実施のアンケートより
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況	B	B	①②授業アンケート、授業内でのレポートより ③授業アンケート、聞き取りによる定性調査
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③姉妹校である台北市立士林高級商業職業学校との交流を推進する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	A	B ・外部講師による講演会等、校外学習の実施回数については昨年と同程度 ・すばるデパートでの出展に参加するゼミの増加
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	・おもに課題研究、商品開発と流通、GBの科目で取組と評価を実施
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	・おもに課題研究、商品開発と流通、GBの科目で取組と評価を実施
	教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容	C	B	②進学指導に関する先進校視察の実施 ③業務の精選、担当科目の割当の工夫
		情報を共有して情報格差の無い教職員チーム			C	A	①各種会議で十分に情報共有がなされた

情報科学	知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	①1年数学Ⅰ・1、2年英語コミュニケーション・2年論理表現Ⅱで実施 ②2年情報セキュリティ・3年課題研究で実施	
		専門性的知識とスキルを習得させる	①教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ②連携事業や検定試験、各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）	B	A		高度情報技術者試験データベーススペシャリスト試験や応用情報技術者試験合格者を輩出するなど前年度以上の成果があった
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況	B	B	B	課題研究（3年）では各ラボの取組において積極的な探究学習を行った。成果のまとめとして発表会を実施し、次年度への継承も行った
		社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B		学校設定科目や課題研究等において外部講師による講演会やワークショップ、フィールドワーク、校外学習、競技会等を開催し、社会とつながる実践的学習を実践した
	学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（大学・専門学校教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	大学教授や専門学校教員、企業の方々との連携を通じて生涯にわたり自ら学び続ける姿勢の育成を図った	
		社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（企業の方、京都府警の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	産官学連携による連携先との交流や先端企業の見学等によりビジネスに携わる大人との関わる機会をつくり、社会に貢献する態度の育成を図った	
	教職員のチーム作り	魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②各専門科目において連携事業等を活用し、新たな取組に向けてのアイデアを創造するチームを作る	①②年間の実施回数および実施内容	B	B	他校成果発表会視察等の実施	
		問題解決のためのアイデアを創造する教職員チーム			B	A		大学や企業との新たな連携事業を創出し実践した

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価	成果と課題	
国語	基礎学力の定着	基礎的な知識・技能の確実な定着を図る取り組みを推進する。	全ての学年・科目の授業において毎週小テストを実施し、それに向けた学習を習慣化させることによって基礎学力の向上を図る。	小テストを定期的実施し、学習習慣を確立させることができたか。	B	B	小テストについては全学年で継続的に実施できたが、学習習慣の定着に課題の残る生徒も一定数みられた。
		表現力を高めるための取り組みを推進する。	表現力を高めるための課題や授業中の取り組みを増やすことによって獲得した知識を他者に伝える能力を醸成する。	表現力を問う課題の設定量を増加させ、生徒の表現力を向上させることができたか。	B	B	授業の中で表現力を問う課題の設定量は昨年度より増加したものの、文章を書くことに苦手意識を持つ生徒の数は未だに多い。
	学習意欲の向上	実社会との繋がりを意識した授業を展開することで、国語を学ぶ意義を伝えられる授業作りを推進する。	主に第1学年「現代の国語」、第2学年「文学国語」、第3学年「論理国語」の授業において実社会で役立つ「話す・聞く」「書く」能力を醸成できるような学習課題の設定に取り組む。	「話す・聞く」「書く」能力を向上させる課題の設定量を増加させ、生徒が目的意識を持って学習に取り組むことができるようになったか。	B	B	B 「書く」能力に関する課題は昨年度より多く設定できたが、「話す・聞く」能力に関する課題の設定量は十分ではない部分があった。
		生涯にわたって読書に親しむ態度を身に付けさせる取り組みを実施する。	授業内で扱った教材に関連する他の作品や自身が興味・関心を持つ分野に関連する書籍を積極的に読む機会を設定する。	生徒が読書に取り組む機会を設定したり、読書への動機付けを行ったりすることで生徒の読書量を増加させることができたか。	B	B	学校図書館と連携した推薦図書冊子の配布や読書課題の設定等によって読書への意欲を喚起した。
	教職員相互の協働	教職員同士の対話を密にし、相互に補充し合える教職員集団を作る。	教科会議や小教科会議での連絡・連携を密にすることで、生徒の実態に即して指導法の改善を図る。	小教科内での打ち合わせを密にし、同一教科担当者間で指導方法の改善に向けた方策を検討・実施することができたか。	A	A	教科内の連携・コミュニケーションを密にし、チーム力を向上させることができた。
地歴公民	主体性確立	授業における主体的・対話的で深い学びの実現	授業における発問・対話の積極的導入 生徒に文章を書かせたり作業に取り組ませ評価する。	発問対話形式は毎時間 授業アンケートにおいて80%を評価の基準とする	B	B	授業における発問・対話は積極的に導入できたが授業アンケートで80%の評価は得られなかった。
	自立性確立	主権者・消費者・人権・多様性教育	地歴公民の学習関連関連分野での詳細説明	定期考査では関連分野での得点 その他は、授業後の感想文	B	B	B 授業で該当事項に留意したが定期考査で十分は配点ができなかった。
	教員間の連携の強化	魅力ある授業に向けて研究を進める教職員チームを目指す取組	教科会議・授業研究の日・研究授業等を活用し、教科力の向上のため、意見を出し合い協力できるチーム作りを目指す。	一人一人が授業力の向上を目指し努力するとともに、教員間でのチームワーク構築を積極的に行えたか。	B	B	常に教員間での意思疎通に努めたが、考査作成などにおいて細部にわたる段階に至らないことがあった。
数学	学習指導	基礎学力の定着を図る。	授業内容の精選、及び中学校までの履修事項とのスムーズな接続を図る。	課題の提出率100%を目指す。基礎学力テストや模擬試験の成績が、入学時より向上するように指導する。	B	B	課題の提出率は、どの講座も概ね80%は超えているものの、100%には至らない。また、生徒の家庭学習時間は全体的に少なく、基礎学力が定着しているとは言い難い。
	進路指導	進路実現のために必要な学力の充実を図る。	生徒の希望する進路に応じて、補習や個別指導を行う。	夏期・冬期に最低1回ずつ進学補習を実施する。	A	A	B 長期休暇（夏・冬）を利用した進学補習は、1・2年ともに実施することができた。
	ICT活用	デジタル教材を活用する。	デジタル教材（Webコンテンツ・Studyaid D.B.・TeX・iPadなど）による授業の視覚化・効率化を図る。	全授業の20%以上でデジタル教材を活用する。	C	C	授業や教材作成など、デジタル教材を用いることはあるが、すべての講座で積極的に活用とまではいえない。

理科	主体性の確立	学習意欲を向上させる	各単元において日常生活との関連を取り入れながら、興味を持ち自ら学習を進めていく態度を養う。そして、将来に学んだ知識を役立てるような力を身につけさせる。	授業に関するアンケートにおいて、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が80%以上となっているか。進路実現において理科を活用する生徒が進路実現できたかどうか。	C	B	B	授業内容を精選するなど生徒の実態に合わせた授業に取り組めた。しかし、授業アンケートの肯定的回答は60%であったため次年度への改善項目としていきたい。
	基礎学力の定着	生徒個々の状況を把握し、基礎学力を身につけさせる	授業内外での生徒とのコミュニケーション、小テスト、アンケート等により生徒の学力や進路目標を確認し、各単元を少しずつ段階的に理解していけるような指導を行う。	授業に関するアンケートにおいて、理解度に関する項目の肯定的回答が80%以上となっているか。	C	B		机間巡視や個別指導を重点的にに行い、基礎学力の定着に努めた。こちらも授業アンケートの数値が目標に達しなかったため、次年度への改善項目としていきたい。
	生徒情報の共有	生徒情報を共有し、個別指導および全体授業の設計に生かす	様々な学力層および行動特性を持つ生徒が在籍しているため、授業中の様子やそれ以外にも気がなったことがあれば教科会等で共有し、指導に反映させる。	生徒情報の共有に関する教科会議や情報共有の機会をなるべくこまめに、複数回持つことができていくかどうか。	B	B		非常勤講師の先生とも積極的に教科に関する情報共有を行うことができた。
保健体育	一人一台端末活用の推進	一人一台端末の利用を積極的に活用していく。	グラフや図など、教科書のQRコードを読み取り活用する。アンケート機能を活用する。	課題学習の際に、発表資料の作成をタブレット端末やパソコンを活用できるか。	B	B	B	1年生がパソコンを使用しているため、体育の授業においては使えない状況があった。
	主体性を高める	自己の体力における特徴と課題を把握させるとともに、一層の向上を図る。	毎時間の終わりに振り返りを記録させる。自分の課題を明確にし、次の授業に向かわせる。	振り返りシートにより自己の課題の達成度が授業開始時より向上しているか。	A	A		毎時間振り返りシートを記入させ、点検し次の授業に活かせた。
		各種目の知識理解及び技能向上を図る。	知識テストを実施する。	知識テストの結果。ルールを理解したゲーム展開ができていくか。	B	B		授業の関係上、知識テストを行えない学期があった。
	自立(律)性を高める	安全かつ円滑に授業を進行するとともに、規律ある行動のもと、積極的に身体活動を行う心身の発達を促す。	年度初めに集団行動を実施し、集団での一人一人の行動の責任と重要性を感じさせる。毎時間の授業はじめに整列と挨拶を丁寧に実施する。誰か任せではなく、一人一人が声を出すよう促す。	様々な教育活動の中で迅速な行動、心のこもった挨拶ができていくか。	C	C		集団行動を行う際は、集団でしっかりと行動していたが、だんだん授業が進むにつれ徹底できていない時があった。
チームワーク	笑談をとおして新しいアイデアを創造するチームを目指す。	日々の会話を大切に、特に生徒の情報交流を細かく行う。その中で現状の生徒に応じた授業内容や行事内容について、昨年度の踏襲だけでなく新たなアイデアを考えていく。	教科会を活用し、生徒の情報共有、授業内容、行事内容の確認を行う。	B	B	教科会で意見を出し合い、生徒に応じた内容に変更していくことができた。		

英語	学習指導	生涯学び続けるための学び力をつける学校	1年生の英語コミュニケーションI、3年情報科学科(課題研究)でチームティーチングを実施して、主体的な態度を育成する。	AETとのチームティーチングを実施し、主体的にコミュニケーション運用能力を高めることができたか。	B	B	AETの先生とJETとで連携し、コミュニケーション能力を高める意識を養った。		
			定期的授業内でリスニング指導を行う。	リスニングの練習・指導を行い、リスニング力を高めることができたか。	B	B		練習やテストを行ったが、実施方法等について精査が必要である。	
			各学年で課題等を設定し、学習時間の増加と学力の向上を目指す。	日々の学習習慣を確立させる工夫ができたか。	C	C		課題を設定し、継続的に実施することができたが、解答の方法や提出において不十分なところもあり、その対応も含めた学習習慣の確立を継続的に指導する必要がある。	
		学校のDXを加速させる学校	授業内でiPadやパソコン等を活用する。	授業内で情報機器を活用し、学習に役立てることができたか。	B	B		生徒への解説や課題の提示、調べ学習等、様々な手法を用いて授業内で活用の機会を設け、役立てることができた。	
		キャリア形成としての進路が実現する学校	商業に関する学科(1・2年生)の生徒全員に全商英検を受験させる。	全商英検合格に向けて適切な指導を行い、検定に対する意欲を高めることができたか。	B	B		B	担当教員を主にして、全商英検の指導を行うことができた。指導の中では、意欲的に取り組む生徒もみられた。
			進学補習を設定し、学習の機会・学力向上の機会を提供する。	進学補習によって学習に取り組む意欲が増えたか。	C	C			進学補習を実施し、参加した生徒は取り組む意欲を向上させたが、参加する生徒数に増加はみられなかった。
		魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム	教科指導や授業の改善について、教科会議・小教科会議で研究議論をする。	教科指導や授業改善について、教科会議・小教科会議で研究協議することができたか。	B	B		教科会議や小教科会議に加え、会議の枠を越えて様々な協議を行うことができた。	
		業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム	教科内で役割を分担し、業務を円滑に行えるようにサポートする。	教科内で協力し、業務を円滑に行える様にサポート・ポジティブなフィードバックをできたか。	B	B		教科内での協力体制により、円滑な業務運営のサポートを得ることができた。また、その都度フィードバックを行い、情報を共有することができた。	

家庭	主体性の確立	授業における主体的・対話的で深い学びを実現する	アンケートや3~4名程度のグループワークを取り入れ、積極的な意見交換や発表を行い、振り返りレポートなどをこまめに取り入れる。課題レポートの発表などを通して、情報の共有を行う。	グループワークや意見交換が積極的にできているか。まとめられているか。(ワークまとめ点)	C	C	グループワークはクイズ、アンケート、協議など多様な方法で行えた。またICT活用による集計により即時フィードバックができた。	
		体験を通して創意工夫・効率の良い作業やルールを学ぶ。		必要な知識を系統的に吸収し、実践につなげられるか。定期考査に向けて誠実に学習できているか。(段階別考査点)	C	C	観点別に考査問題を作成し、学習状況が確認できた。	
	自立(自律)性の確立	自らの現状や課題を模索し、自立に必要な知識と技術を習得する。	講義、ワーク、実習、振り返り、提出物の完成度などを通して定着の様子を把握する。個人作業や協力作業を取り入れ、コミュニケーションを取りながらスムーズに作業できるよう促す。	現状と課題が把握できているか。提出物が指示通りできているか(レポート点提出物点)実習や作業が協力して、また個人の目標達成できたか。(実習点)	C	B	C	提出物の形式を一定化せず、多様な様式で実施した。長期休業中の課題に、保護者コメント記入の協力をいただいた。実習は毎回生徒の班編成を変えて実施した。
		意思決定の重要性を知り、適切な情報、資料の読み取りができるようにする。	視覚教材や資料を活用し、身の回りに起こってる多様な状況を知らせることで課題意識を持たせ、自己決定の判断材料とする。	将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取り内容を論理的に説明できているか(段階別考査点)	C	C		写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用した。内容を共有しやすいようデジタルによる発表実施に努めた。
	進路実現	社会情勢を知り、知識を蓄え、自分の言葉で現状と課題解決に向けての意思表示ができるようにする。	同上		将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取りと現代の課題を結びつけ、自分の言葉で意思表示できているか。(段階別考査点、レポート点)	C	C	写真や動画、新聞記事などを利用して現状を知らせ、自立に向けた力をつけるべく期限を設けて課題を考えさせた。
			生活に関わる情報をリアルタイムで提示し、その都度考えをまとめる等の意思表示ができるよう促す。			C	C	写真や動画、新聞記事などを利用してレポート作成させたり、デジタルコンテンツを活用して発表するなど、活動を講座内の全員で共有できた。
情報	学習指導	3観点の学力を向上させる	授業において生徒全員が理解を深められるよう、授業中に複数の教員で対応、確認を行う。検定試験や国家試験の合格率を上げるため、補習や個に応じた指導を行う。	授業アンケートにおいて、理解が得られているか。検定試験、国家試験の合格率向上。	B	B	授業、進学補習や検定補習、夏休みの講習会等、生徒の状況に応じた指導ができた。特に検定試験においては、合格率が大幅に向上した。	
	教職員チーム	お互いにサポートしあう	授業を見学し合い、意見交流を行う。	1ヶ月に1回、見学週間を設ける	B	B	B	後半は見学週間を設定しにくかったが、研究授業等、積極的に参観できた。また、教科会議等を利用して情報共有を密に行うことができた。
			全ての科目において、現状と予定を全教員が把握する。	教科会議において、科目担当より報告を行う	B	A		
教職員チーム	課題解決のためのアイデアを創造する	教科会議・科目会議・課題研究会議等において、生徒の情報共有を密に行い、現在の生徒の層に合わせた教育活動ができるよう、伝統を継承しつつ新たなアイデアを取り入れる。	教科会議において、生徒情報の共有を行う 科目担当からも、授業内での様子の共有を行う	B	A	生徒情報の共有を行い、教員同士が連携をはかることができた。また、新たな取組も多く取り入れ、外部にも発信できた。次年度は、取組内容の整理が課題である。		

知識・技術を身に付けさせる	専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目）	①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する	①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	①英語コミュニケーション（1年）・数学Ⅰ（1年）などで実施。また、簿記、財務会計において講座授業を行い、学力向上に向けた取り組みが実施できた。 ②ビジネス英語（2年）で実施 ③現代の国語（1年）などで実施
	専門性を身に付けさせる（専門科目）	①1年生商業学科群に対する、適切な学科選択のための指導の標準化 ②教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ③検定試験や各種コンテストを活用する ④販売学習「京都すばるデパート」を活用する	①検定試験の合格率（全国平均以上） ②専門科目の内容充実度 ③検定試験、コンテストの実績 ④生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか）	C	B	①簿記、ビジネス計算、英語で全国平均以上 ②授業アンケート、取組に対する外部評価より ③難関検定の取得率と進路実現への接続 ④授業内実施のアンケートによる
思考力・判断力・表現力を伸ばす	課題解決型探究学習を推進する	①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②積極的に外部との連携を行い、探究的な学習を推進する ③その他の科目でも積極的に探究学習を行う ④卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する	①②③生徒アンケート（振り返り・満足度） ④進路決定状況	B	B	①②授業アンケート、授業内でのレポートより ③授業アンケート、聞き取りによる定性調査
	社会とつながる実践的学習を推進する	①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する ④姉妹校である台北市立士林高級商業職業学校との交流を推進する	①②③④年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	A	B ①② ・年間20回を超える外部講師連携やワークショップ、フィールドワークを実施 ・昨年度に引き続き高大連携授業を年4回（校内・外部企業・大学講義等）実施 ・すばるデパートでの出展に参加するゼミの増加 ③5名（入学者定員5名）の希望者があり、全員が合格することができた。
学びに向かう力・人間性を育む	生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む	①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	・おもに課題研究、商品開発と流通、GB、起業マネジメントの科目で取組と評価を実施
	社会に貢献しようとする態度を育む	①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等）	①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度）	B	B	・おもに課題研究、商品開発と流通、GB、起業マネジメントの科目で取組と評価を実施
教職員のチーム作り	魅力ある高校を目指して前進する教職員チーム	①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る	①②③年間の実施回数および実施内容	C	B	②進路指導に係る先進校視察 ③業務の精選、担当科目の割当の工夫
	情報を共有して情報格差の無い教職員チーム			C	A	①各種会議で十分に情報共有がなされた

<p>学校関係者評価 委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校における教育活動の成果が伝わっていないところがあるのではないか。人の目が多い場所でのデジタルサイネージや動画活用で実現できないか • 世の中が変わっていく中でも、京都すばる高校の指導が厳しいイメージや、規律を身につけさせているという良さがなくならないよう保ってほしい • 社会に役立つことを考えると学習と実践のどちらかに偏らず、一定の学力もあり作法や体力も身につけている生徒を、難しいとは思うが育成してほしい • 盗難を解消するために「見守りカメラ」を積極的に設置してもよいのではないか。アンケートで盗難に言及している例も見受ける • キッチンカーや自販機による食育対応は評価できる。昼休み前半「食事の時間」の設定は維持してほしい。20回噛んで食べると健康上ほとんどの問題はなくなる
-----------------------------	---

<p>次年度に向けた 改善の方向性</p>	<p>各評価項目の評価から示された今年度の成果と課題を踏まえ、次年度の学校経営計画に反映させていく。特に主体性・専門性・規律性の育成を強化し、安心安全な学校を目指した教育相談体制の充実を目指す。さらに学校DXの推進を目指し、教職員が相互に協力し、生徒達の学校生活の充実と進路を実現する学校運営を実現する。</p>
---------------------------	--